

汚れる大気 中国混乱

13年(平成25年)1月31日 木曜日 享月 日 業所

汚れる大気 中国混乱

日本人学校、体育を中止

中国で深刻な大気汚染が連日続き、市民生活にも大きな影響が出ている。北京では30日、有害物質を含んだ霧が街を覆い、日本人学校や欧米の国際学校は屋外での体育の授業を取りやめた。高速道路では約40台の衝突事故が起き、工場は操業を停止した。▼1面参照

特に深刻なのは、北京市や河北省、山東省、天津市など。北京の米国大使館などの測定で、肺がんやぜんそくなどを引き起こす微小粒子状物質「PM2.5」の大きさが29日には一時的に、世界保健機関の環境基準の約20倍に達した。

北京紙・新京報によると、汚染物質を含む霧に覆われたのは全国で約130万平方キロに達した。日本の総面積の約3.5倍にあたり、広範囲にわたり昼でも夜のように薄暗くなった。北京市政府は、1000社以上の工場の操業を止め、公用車の使用を30%減らすなどの緊急策を取った。

北京の日本人学校では、30日もPM2.5が嚴重汚染にあたる「危険」の数値を超えたため、屋外での体育授業を中止し、外で遊ばないよう指導した。屋外活動の禁止は、7日から始まった新学期ですでに8日目になり、「校庭でも遊ばず、子供にもストレスがたまると」(同校)。

北京の日本大使館は「想定をはるかに超す汚染レベル」とし、外出時には工事現場で使う特殊マスクをつけ、室内では空気清浄機を使うよう呼びかけている。(北京＝奥寺淳)

「日本への影響 すぐにはない」

環境省

環境省によると、冬は放射冷却で大気汚染物質を含む冷たい空気が地上付近にたまりやすいという。「日本でもやや高い数値はあるが、直ちに健康に影響があるレベルとは考えにくい。冷静な対応を」と話す。

中国などからの越境大気汚染を研究する九州大学応用力学研究所の竹村俊彦准教授によると、こうした有害物質は毎年、3月から梅雨前にかけて、西からの風によって日本へと運ばれてくる。越境大気汚染は10年ほど前から顕著になっているが、九州上空では中国の10分の1以下の濃度になっているという。



大気汚染 かすむ天安門

中国各地で深刻な大気汚染が続いている。北京では30日も汚染物質を含む霧が街を覆い、天安門広場の毛

沢東の肖像(中央奥)もかすんでいった。マスクをする市民も目立ち、北京の日本人学校では同日も屋外での体育を中止し、校庭で遊ばないよう指導している。(北京＝奥寺淳)

▶ 3面＝中国混乱